

人間の回復する可能性を信じて！ マヒした右手が動くようになるまで

右手を使えるように。

脳梗塞の後遺症により、右片不全麻痺と言語障害を患うことになったS・I様。医師から右手を動かすことはもう難しいと言われました。陶芸や染色などデザインを手がけ、染色作家として素晴らしい作品を残されてきたS・I様は、作品を作り出してきた右手が動かさない現実を目の当たりにし、右手を動かすことを一時はあきらめていました。病院でのリハビリにおいても脚中心で、右手のリハビリは行っておりませんでした。今回、回復の可能性を信じ、訪問マッサージを申し込まれました。訪問マッサージでは、身体的なりハビリの他に、認知運動療法も取り入れられました。S・I様は、前向きに右手の施術に取り組み、その結果、手の指を伸ばす動きがはつきりと出来るようになりました。

今後は、右手の各指の動きを促進法により引き出し、日常生活の向上を図っていきます。



千葉営業所 渋澤相談員



認知運動療法



ボールを離す練習



肩関節の施術

認知運動療法で改善。
 今回のケースは、促進法や認知運動療法を試み、ご利用者・ご家族と一緒に前向きにリハビリに取り組み、身体的能力が向上した事例です。「右手を使えるようにして欲しい」というご利用者とご家族の熱意になんとしても答えたいという思いで促進法や認知運動療法という新しい試みを行ない、早期での改善につながった経緯に焦点をあてました。

【初期目標】

右肩の痛みの改善

【中期目標】

右手の親指、人差し指、中指の屈曲動作を他の指に力が入らず10回

【長期目標】

食事、着替え等日常生活で、右手を使えるようにする。

【治療内容】

初期は、右肩の痛みを改善するため、右肩周りのマッサージや促進法を用いて施術を行いました。施術日以外の日に課題として「ふきんでテーブル拭き」を行って頂きました。現在は、認知運動療法を取り入れ、指先の運動を行っています。

ご利用者情報

ご利用者 S・I様(80歳・男性)
傷病名・脳梗塞後遺障害、右片不全麻痺、言語障害(運動性失語)

脳梗塞の後遺障害により、右片不全麻痺と言語障害を患われていました。右肩は屈曲や腕を下ろす動作時に強い痛みが出る為、着替えや洗顔など日常生活面で支障がありました。右手は、各指バラバラに動かすことができない状態でした。認知運動療法の



今井施術師

導入により、親指、人差し指、中指、の分離運動が改善されました。

ご家族の声

「右手は動くようにならないかも・・・」と病院の医師から言われていたので、今の状態に驚いています。以前は、着替えや入浴時に、右肩の痛みを訴えていましたが、今は全く痛みを訴えることがなくなり、介助をする上で、精神的にも身体的にも楽になりました。リハビリやマッサージの効果はかなり出てきていると思います。

ケア・マネジャー様の声

右肩の痛みも改善もでき、右手で積極的に作業を行なうようになってきました。表情も明るくなり、言語リハビリにも積極的に参加するようになりました。



あきらめていた右手の指を動かせるようになった